

所沢市立教育センター「所報」

# いっしょだ

授業が変わり、学校を変えて、子どもを伸ばそう

所沢市の教育の理念

みんなが持っている三つの「宝」を  
掘り起こして大きく育てます  
心身のたくましさ  
未来を拓く知恵  
ふるさと所沢を愛する心

## 9～10月の研修会

教育センターでは9月から10月にかけて、様々な教育課題に対応した研修会が開催されました。また、文部科学省教科調査官の先生方による研修会も開催され、参会者の皆様にとって学び多きものになりました。実際の研修会の様子を御紹介します。



### 子どもたちの考えをしっかりと捉えましょう！



「道徳科における主体的・対話的で深い学び」について御講義いただきました。道徳科の授業づくりにおいて、「**問題意識をもつ**」「**自分との関わりで考える**」「**多面的・多角的に考える**」「**自己の生き方について考えを深める**」ことを大切にするのを御指導いただきました。講義終了後には、多くの先生方が浅見先生への質問で列をなし、大変充実した研修会でした。

文部科学省教科調査官 浅見哲也氏

《感想より》

- ・自分事としてとらえるための発問等、とても参考にさせていただきました。そして、最後の「道徳科の授業は未来への投資」という言葉が心に響きました。
- ・「道徳科」とは何かという根本的な部分から授業の作り方、子どもの意見の活かし方、発問の仕方、板書の仕方などの細かく具体的な部分まで丁寧に説明をしていただきました。

道徳科の充実に向けた研修会

### まずは先生が楽しんで！



「問題解決するために必要な資質と能力」を育成するために「**単元導入時**」の観察・実験を見直し、事物・現象との出会いを大切にすることや見直しをもって**観察・実験**を行うことについて御指導いただきました。グループワークでは参会者同士が教え合いながらたくさんの実験を実際にやってみることができ、主体的な研修会となりました。

市内小学校 教諭

《感想より》

- ・実験の場をたくさん用意していただき、色々な学年の実験を行うことができ、貴重な体験をさせていただきました。実際にやってみないと分からないことも多く、また、先生からアドバイスやアイディアを教えていただき、楽しく学ぶことができました。

第2回小学校理科授業力向上研修会

### 子どもが思考して発話する！



「子どもたちが思考すること」、そのために「**言う必然性**」「**聞く必然性**」を授業場面で作くり出すことが大切であることを御指導いただきました。また、高学年の外国語においては、中学年と同様に音声中心で進めることや、詰込みではなく**先生と子どもたちで会話のやり取りを楽しんでほしい**というお言葉をいただき、充実した研修会となりました。

文部科学省視学官 直山木綿子氏

《感想より》

- ・ねらいを子どもから出させるのは、他の授業においても同じことであり、外国語でも求められていることなのだ初めて知ることができました。
- ・「ゲームはいい。やり取りだけでもいい授業ができる。」と聞き、挑戦してみたいと思いました。

外国語活動の教科化に向けた研修会

### 内容ファースト！



「**フレームや例文がなくとも表現できる英語力が必要です。**」そのためには、生徒に使ってほしい「英語」を教師自身が示すことが大切であり、生徒が「**話したい**」「**尋ねたい**」と思える授業づくりをしてほしいという熱いお言葉をいただき、明日からの授業に役立つものとなりました。

文部科学省教科調査官 山田誠志氏

《感想より》

- ・目的・場面・状況に応じた英語の使用を重視させること。それが子どもの思考・判断をふるわせると聞き、納得しました。
- ・内容重視の指導をもっと積極的に取り入れ、単純な文法の学習ではなく、実際に生活や将来に役立つ英語の授業を行ってきたいです。

外国語教育の充実に向けた研修会

## Let`s start プログラミング！

次回、12月3日（火）に東所沢小学校で行われるICT活用研修会ですが、**タブレットでプログラミングし、レゴで組み立てたトラックを操作します。**トラックを目的に応じた動きをさせるためにどのようにプログラムを組めばよいかを考えます。

今回は、社会科の「ゴミの分別」について学習を深めた上で、総合的な学習の時間で、「**リサイクルを進めるために、どのようなロボットが必要なのか**」をみんなで考えます。来年度の完全実施まで残り少なくなっている中で、実践的な研修ができる良い機会です。多くの先生方の御参加をお待ちしています。



# 1月～2月の研修会

●：各学校1名以上必ず参加。

★：対象者は全員参加。

研修会名	内容	日時	会場
小学校プログラミング教育指導教員養成研修会⑤	プログラミング教育について、理解の伴った実践経験を積み、中心となる先生を育成し、必修化に備える研修会 指導者 みんなのコード 講師 松川 厚雄	1月10日(金) 14:30	教育センター
ESD(持続可能な開発のための教育)研修会	持続可能な社会の担い手を育む教育を授業を通じて学ぶ研修会 指導者 自由学園 最高学部特任教授 成田喜一郎	1月16日(木) 14:00	北秋津小学校
英語サロン⑤	ワークショップを通して、外国語の授業で使える活動について学ぶ 指導者 教育センター指導主事・AET 他	1月22日(水) 15:00	教育センター
小学校理科授業力向上研修会③	小学校の理科の授業での悩みを解決する研修会の3回目 指導者 教育研究会	1月22日(水) 15:45	教育センター
思考力・判断力・表現力の向上を目指した社会科授業研修会	社会科における思考力・判断力・表現力の向上のための授業づくりの基本や問題解決的な学習の在り方を学ぶ(市教研共催) 指導者 女子栄養大学 松尾鉄城	1月24日(金) 13:55	富岡小学校
ICT活用研修会④	タブレットPC、電子黒板等のICTを活用した授業や、プログラミング教育の授業を参観し、ICTを活用した授業づくりについて学ぶ 指導者 十文字学園女子大学 教授 安達一寿	1月24日(金) 13:55	美原小学校
学び創造アクティブプラン研究校支援研修 主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業づくり研修会	児童生徒の主体的・対話的で深い学びを目指す授業づくりについての研修会 指導者 元文教大学 教授 嶋野道弘	1月29日(水) 13:45	西富小学校
特別支援教育を担う教員育成研究会	通級指導教室や特別支援学級担任等の専門的な知識・技能を身につける、はじめの一步の研修会 指導者 中央中学校 教諭 杉森 弘 (通級指導教室担当) 泉小学校 教諭 坂本 條樹 (通級指導教室担当)	1月29日(水) 15:00	教育センター
学び創造アクティブプラン研究校支援研修 わかる授業づくり研修会	わかる喜びを味わわせるための方策について学ぶ研修会 指導者 国立教育政策研究所 総括研究官 山森光陽	1月30日(木) 14:00	柳瀬中学校
校務支援システム活用研修会	校務支援システムの年度移行作業の確認の講義と操作体験の研修会 指導者 (株) EDUCOM CS部	1月30日(木) 13:00(中学校) 15:00(小学校)	所沢中学校
学び創造アクティブプラン研究校支援研修 ICTを活用した授業づくり研修会	タブレットや電子黒板、プログラミング教育などのICTを活用した授業づくりについての研修会 指導者 十文字学園女子大学 教授 川瀬基寛	1月31日(金) (時間は未定)	美原中学校
学び創造アクティブプラン研究校支援研修 外国語活動授業づくり研修会	新学習指導要領の要点を踏まえた授業づくりについての研修会 指導者 埼玉大学 教授 及川 賢	2月 5日(水) 13:30	所沢小学校
学び創造アクティブプラン研究校支援研修 ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり研修会	誰にでもわかりやすい授業づくりについての研修会 指導者 明星大学 教授 小貫 悟	2月 5日(水) 13:55	三ヶ島小学校
幼児教育研修会②	幼児期の発達への理解と支援方法を学ぶ研修会 指導者 玉川大学教育学部乳幼児発達学科 教授 若月芳浩	2月 5日(水) 15:00	教育センター
★研究員・学び創造アクティブプラン研究委託校 研究発表会	各種研究員、学び創造アクティブプラン研究委託校による研究成果の発表 ★授業実践研究員、教育相談研究員及び専門研究員は必ず参加。研究員以外の方も参加可能。	2月15日(土) 8:50	教育センター
★研究員合同研修会③ ～主体的・対話的で深い学びのための研修会～	新学習指導要領で重視されている主体的・対話的で深い学びの視点をあてた授業改善について学ぶ研修会 指導者 十文字学園女子大学 教授 富山哲也	2月15日(土) 11:00	教育センター
学び創造アクティブプラン研究校支援研修 特別活動授業づくり研修会	楽しく豊かな学級、学校生活をつくる特別活動を学ぶ研修会 指導者 國學院大学 教授 杉田 洋	2月19日(水) 13:35	山口中学校

## 教育相談室から ～『今、あなたがここにいること』の活用の際して～

今回は、子どもたちのSOSをキャッチするために、心に留めて頂きたいことをお伝えいたします。  
はじめに、児童生徒の「大丈夫」は、大丈夫とは限りません。困っている時にSOSを出せない場合もあるからです。日々の小さな変化を見逃さないようにするとともに、児童生徒がSOSを出しやすくなるよう、気になる児童生徒への言葉がけは「大丈夫？」ではなく、「どうしたの？」と聞きます。そして、言葉の背景にどのような思いがあるのか、どのような課題を抱えているのか等、見えない部分にも留意します。特に、児童生徒の「死にたい」というつぶやきや自傷行為は、「助けて」「生きたい」というサインであると受け止め、本人の思いを落ち着いて聴いてください。そして、校内で情報共有の後、家庭や専門機関につなぐなど迅速な組織的対応と丁寧な見届けをお願いいたします。参考『平成31年度 教師となって第一歩』

